

〔法学新報〕第30巻3(339)号 大正9年3月5日

○中央大学剣道部寒稽古 我中央大学剣道部今年度の寒稽古は一月十四日より二月十日迄四週間之を行ひ出席部員毎日平均三十名を下らず月曜に中山師範、火、木曜に今泉師範の出席ありて親しく教導され其他の日には萱島五段、見上高橋福原の各三段稽古台と為りて毎日火の出る如き猛烈の稽古を為して四週間の短時日中に一同非常なる進歩を為しぬ殊に寒稽古中早大より土田、小林、關、松岡の各三段明大より田島四段、關三段、慶大より川副四段、高商より永井二段等の来援ありしは部員の感謝する所にして二月十二日柔道部と合併して寒稽古納会の豚汁会を道場に開く剣道部よりは中山今泉両師範、柔道部よりは永岡師範の出席あり一同豚汁に舌鼓を打ちて談笑裡夕刻散会、志邨(守)、鹿目、安生、山中、新井、鈴木、志村、松井は特に進級せり」本部今年度卒業生は萱島五段志邨二段の兩名にして部員一同より両君多年の功に報ゐんため置時計一箇つつを贈呈し尚二月五日送別会を催し中山今泉両師範及長山、小平、鳩谷の先輩も列席ありて盛大なりき」大日本武徳会範士とし且つ斯界の元勲として吾人の畏敬せし眞具忠篤先生は七十九歳の高齡を以て二月二十二日急逝さる我部は生花一对を贈りて先生の靈前に供せり」昨秋十月より二月まで各学校各道場に於ける我部

選手の成績は七割強の勝ちにして殊に二月一日拓殖大学に於て
挙行せし第二十三回東京学生聯合剣道大会にての我部十名の選
手は全勝にして参加十七校中第一の成績なりしは吾人の大に誇
りとする所なり（委員報）